

51

Nov. 2017

JSDA

一般社団法人 日本シャッター・ドア協会

②特集

定例理事会及び西日本支部会懇親会を開催

④特別寄稿

「学校施設について考える」

⑤シリーズ

「気候変動『適応』策としてのドア・シャッター」

⑥第1回 会員企業紹介コーナー

⑧第1回 委員会紹介コーナー

⑩寄稿

「カンボジア建設法策定支援と密林のアンコール遺跡群」

⑪統計データ

特集

定例理事会及び 西日本支部懇親会を開催

さる10月24日(火)午後、大阪市のホテルメルパルク大阪において日本シャッター・ドア協会の定例理事会が開催された。続いて、国土交通省住宅局建築指導課 課長補佐 山口義敬氏による講演会が行われた後、夕刻より懇親会が開催された。

第16回定例理事会

14時半より、6階「末広」において、第16回定例理事会が開催された。

定例理事会では議題として、第1号議案「協会事務所移転について」、第2号議案「平成29年事業及び収支の中間報告について」、第3号議案「平成29年度補正予算について」、第4号議案「会員の入会について」が諮られ、原案通り承認された。次に報告事項として防火設備の検査報告制度、技能検定制度について報告が行われた。



国土交通省住宅局建築指導課
課長補佐(防火担当)
山口 義敬氏

講演会

15時45分より、5階「ル・マンワール」において国土交通省 住宅局 建築指導課 課長補佐(防火担当) 山口義敬氏をお招きし、講演会が開催された。

山口氏は、国土交通省において防火関連の業務に携わっており、防火設備の定期検査報告制度を施行するにあたりサポートしていただいた。

講演では、『建築防火に関する最近の話題』というテーマで、防火・避難における防火設備や防火規格の基礎知識から建築基準法の解説、また近年の火災事例として糸魚川市街地火災やロンドン共同住宅火災の状況と原因をお話された。最後に、建築防火において重要な一翼を担う防火設備の定期検査報告制度の施行にあたり講習制度や資格者の確保に、引き続きご協力いただきたいと述べられた。

講演会には数多くの会員が参加し、参加者は熱心に聞き入った。



講演会の様子

10年ぶりの西日本支部 懇親会が開催される



懇親会の会場となった4階「ソレイユ」には西日本支部を中心とした会員ら約60名が参集し、17時の開宴とともに木下会長よりご参集いただいた皆様へのごあいさつが行われた。その後、岡田常任理事の乾杯の発声により歓談に移った。会は18時30分、小松副会長により中締めが行われ、終始和やかな雰囲気の中、10年ぶりに開催された西日本支部 懇親会はお開きとなった。

ごあいさつ

■ 木下 和彦会長

西日本支部の皆様には日頃より当協会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。また、本日はお忙しい中、ご列席いただき、誠にありがとうございます。

昨年スタートした防火設備の定期検査報告制度は、順調に取組みを進めております。また、新たなる重要なテーマとして、浸水防止用設備技術基準のJIS化、シャッター・ドアの施工技能検定制度への取組み、消費者庁の事故調に協力し、シャッター等の安全性向上に努めてまいります。

これからも協会として、社会に貢献できる事業に取組んでまいりたいと存じます。その実現のためには、皆様方からのご支援が何よりも大切です。

本日は、10年ぶりに開催された西日本支部の方々への感謝の集いです。皆様に心置きなく楽しく過ごしていただければ幸いです。



乾杯のご発声



■ 岡田 敏夫常任理事

本日は西日本支部 懇親会にご列席いただき誠にありがとうございます。西日本支部での懇親会は10年ぶりとなります。今後は定期的で開催し、会員の皆様からのご意見をいただく場、交流の場としていきたいと存じます。

中締めのごあいさつ



■ 小松 進副会長

最近雨の日が続き、台風もありましたので、本日の開催を心配しておりましたが、無事に開催することができ大変嬉しく思います。当協会は皆様のご支援により成り立っております。今後も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

学校施設について考える

— 子どもたちの学習環境と 避難所の居住環境の改善のために —



株式会社東畑建築事務所
品質推進本部環境計画室フェロー
岡本 茂

仕事柄、多くの学校を見せていただく機会が多い。建設時期はまちまちだが、高度経済成長期に建てられたものが圧倒的に多い。耐震改修は、ほぼ終わったように見える一方で、防火区画等が既存不適格の校舎、見るからに暑くて寒そうな校舎が散見される。前者は、当協会の会員企業に整備していただきたいが、後者は、影響範囲が広く、早急に手を打たねばならない。

学校施設が保有する面積は、公立小中学校のみで約1億6,000万㎡とされ、その大半は、断熱性能が脆弱であること、普通教室等に空調設備を設置する自治体が急増していることなどから、学校からエネルギーが垂れ流されているといっても過言ではない。また、校舎や体育館で、児童・生徒が熱中症になるニュースも頻繁に聞かれ、平常時に、子どもたちが過ごす空間が、このような状態であれば、大規模災害時に避難所として使用される際の

温熱環境も、相当ひどいことが想像される。

子どもたちや教職員が日常使用する教室や管理諸室、避難所の拠点となる体育館、避難弱者である要介護高齢者、乳児、障がい者や感染症発症者等が利用可能な諸室の温熱環境の改善を、被構造部材の耐震化、マンホールトイレ等の整備とともに、スピード感をもって整備する必要がある。

在来型発注方法では、地方自治体の予算に限りがあり、全対象校を整備するまでに相当な時間を要し、迫りつつある南海トラフ地震や首都直下型地震等の発生に間に合わない恐れがある。民間資金を活用するなどして、これらを一括整備することができれば、子どもたちの学習環境の改善、校舎の省エネ、避難所の居住環境の改善など、一石二鳥以上の効果が得られるのではないかと考える今日この頃である。

NEWS

実技講習講師のための研修会を開催

さる9月8日(金)に日本シャッター・ドア協会主催により「平成29年度実技講習講師のための研修会」が開催されました。

初めにJSDA事務局から29年度の実技講習開催日程について説明があり、今年度の実技講習は平成30年1月26日の福岡会場を皮切りに1月30日～2月1日の3日間は大阪会場、2月7日は名古屋会場での開催、2月20日から2月23日までの4日間は東京会場でそれぞれ開催されることになっています。続いて平成28年6月1日～29年3月31日の期間に会員会社4社で実施された防火設備検査報告書(東京都23区対象)の集計報告が行われました。次に「防火設

備検査に必要とされる知識について：制度・業務基準・報告書に関する事」の研修を実施し、続いて今回講師用に作成された質疑回答集について意見交換を行い、予定の研修会を終了しました。



「気候変動『適応』策としての ドア・シャッター」

東京大学 生産技術研究所
教授 野城 智也



地球規模での気候変動が起きていることを実感せざるを得ない。大型台風や記録破りの集中豪雨の発生頻度は明らかに高くなっている。また夏期に発生する局地的な短時間集中豪雨は、熱帯地方でのスコールを彷彿させる。また、コートクリーニングに出したと思ったら、すぐに半袖の気候になっているように春の長さが冬と夏に蚕食されることが当たり前になりつつある。将来の世代は、春夏秋冬の移ろいをモチーフにした日本の伝統文学の感覚を共有でなくなるのではあるまいかと心配になる。

明らかに地球規模で気候はおかしくなっている、といわざるを得ない。

様々なデータが蓄積されるに及び、世界の大多数の科学者は、この地球規模でおきている気候変動は、人為的要因によっていると考えるに至っている。そして、IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）を介して、人類の活動由来の地球温暖化効果ガスの排出を削減する包括的な対策が国境を超えてとられようとしている。

それゆえに、二酸化炭素などの地球温暖化効果ガスの削減が極めて重要であることは間違いない。それとともに、IPCC など国際社会に現れてきたもう一つの考え方も極めて重要である。

それは、気候変動への適応（adaptation）という考え方である。地球温暖化効果ガスの削減は気候変動を緩和（mitigation）することを目的としているが、気候変動が現実には起きていることを直視するならば、緩和策に加えて適応策も実行されるべきであるという認識が、気候変動への適応という考え方の基底にある。

では、建築において、気候変動への適応策は具体的に何かということを構想してみると、ドア・シャッターの役割が重要であることが浮かび上がってくる。

都市部の建築では、地下室など地盤面よりも低いレベルに、諸設備が設置されている事例は決して珍しくない。一方、ゲリラ豪雨など従来の設計想定を超える降水量の出現頻度は高まっており、地下駐車場、サンクンガーデン、免震層などを介して、集中豪雨が浸入し、これらの諸設備が

冠水し、建築機能が長期にわたり停止するリスクは高まっているといわざるを得ない。このような原因により医療施設、データセンター、交通施設、官署などの社会基盤などが機能しなく影響は計り知れない。

気候変動により既存建築が抱えることになった浸水リスクに「適応」することは急務であり、適応に資するドア・シャッターなどの開口部品の開発・普及は極めて重要である。

既に、防水シャッターなどが商品化され始めているが、設備を冠水させてしまうような浸水ルートは様々であることから、従来のドア・シャッターとは異なる形状、異なる駆動方式による開口部品も必要になってくると考えられる。

また、現在販売されている防水シャッターは、人による操作を前提としているものが多い。ゲリラ豪雨発生の不規則性や、各施設の管理要員の配置密度を勘案するならば、自動感知・駆動で浸水防止性の発揮できる開口部品の開発を射程に入れるべきであろう。前回の本欄で、開口部品へのIoTの導入可能性について言及したが、自動感知・駆動する浸水防止性を実現するための必須の技術といわねばならない。

具体的には、気象観測情報や、気圧・降雨量などの計量情報をもとに、浸水のおそれがある降雨であると判断された場合は、人や障害物の状況を検知しつつ作動し、耐水圧性、水密性などの浸水防止機能が発揮する開口部品が求められている。

このように書くと、「そうはいつでも、気圧、降雨量の計量、人や障害物の感知などのセンサーや、気象データ解析プログラム、ドア・シャッターの動作制御プログラムなどを新たに搭載することによって、製品があまりに高価になってしまうのではないか？」という懸念を抱く方も多いと思う。

確かに、センサー全てを開口部品に搭載し、プログラムもドア・シャッターのメーカー自らが作成し製品自体に組み込むとなると、懸念は現実化してしまうであろう。IoTの一つの本質は、インターネットを介して、他所・近傍で収集されたセンシング・データや、独立したベンダーの作成したプログラムを使いませることにある。自動感知・駆動で浸水防止性の発揮できる開口部品の開発・普及の成否は、メーカーが何もかもを内製化するという発想にとらわれることなく、他社と相互補完的に連携して、浸水防止性という「ひとまとまりの価値」を発揮することができるかにかかっているといってもよい。

気候変動への適応として、浸水防止性に加えて、台風の大規模化による強風圧や飛来物による被害を緩和できるような開口部品も必要となろう。残念ながら、紙数も尽きてしまったので、これについては別の機会に論じたい。

株式会社 杉山商店

所在地：岐阜県岐阜市柳津町下佐波 6-55（登記上本社）岐阜県岐阜市長住町 6-11
事業内容：各種鋼材、非鉄金属販売・スチールドア製作・鋼材加工品製造販売



代表取締役社長
杉山 正氏

● 当社の強み

お客様から信頼される品質・多種多様な品揃え・タイムリーな納品をモットーに素材から加工製品に至るまで有益な機能と安心・安全を提供する地域密着型の企業を目指しています。



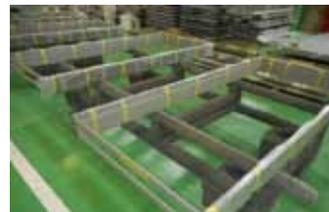
大野工場



流通センター



SD パネル



SD 枠

● JSDA に期待すること

シャッター・ドアに関する法令、新商品、施工方法等の情報提供や講習会を通じて業界全体のスキルアップとレベルアップに繋がることを期待します。

● 地元のオススメスポット

「炭焼うなぎ 喜多川 柳津店」

岐阜県岐阜市柳津町東塚 3-25（当社流通センター付近）

「そば茶寮 如庵」

岐阜県本巣市上保 1256-82（当社大野工場付近）

※ お勧めは蕎麦コース



「炭焼うなぎ 喜多川 柳津店」
おすすめのひつまぶし定食



「そば茶寮 如庵」

株式会社 藤建鋼

代表取締役社長 安藤 彰浩

所在地：岐阜県各務原市須衛町7丁目 49-2

事業内容：鋼製建具製造

● 当社の強み

最新設備を導入する事により無人化を進め、品質、生産量の向上を目指しております。人に優しい工場を目標に環境整備にも取り組んでおります。人と設備、ソフトの融合を展開し、製造現場の改善に取り組んでいます。



本社外観



● JSDA に期待すること

中小企業に対する税制優遇や助成金の情報伝達及び資格取得支援。

鯉城サッシュ工業 株式会社

所在地：広島県広島市安佐北区大字毛木字長谷 1564 番

事業内容：鋼製建具の設計・製造・販売



代表取締役
沖 常登 氏

● 当社の強み

広島市で唯一の鋼製建具の製造工場として、地元を基盤とし取引先の皆様が笑顔でいてくださること、社員及び協力会社の方々が幸せになることを念頭に、ものづくりをしています。



第一工場・事務所



第二工場



● JSDA に期待すること

現会員及びこれから入会される会員と、それぞれのニーズの把握と、それに伴う情報の提供を期待します。

● 地元のオススメスポット

鉄板焼お好み焼き修電業研堀店 広島名物お好み焼きもご用意しています。広島に出張・観光でお越しの際は、是非ご利用下さい。広島ならではの牡蠣焼き、うにホウレンなど広島風鉄板料理店です。

株式会社 メカニック

所在地：岐阜県不破郡垂井町表佐 860

事業内容：鋼製建具製造・販売



社屋の写真



代表取締役
田中 博之 氏

● 当社の強み

三和シャッター工業株式会社様のシャッター製造協力工場として協和工業株式会社を設立し 45 年、同じくドア製造指定工場として株式会社メカニックを 28 年営んでいます。短納期を得意としお客様の要望に応える為に、止まる事のない技術、品質への向上心を持ち社会に貢献し、社員の豊かな生活、生き甲斐を生み出したいと考えています。

● JSDA に期待すること

日頃決められた環境の中、固定観念で考えがちな状況に危機感を感じています。気づきを得られる様な多くの情報発信をしていただいたり、日々変わりゆく業界の環境、法制度などの情報を提供していただける事を期待しています。



● 地元のオススメスポット

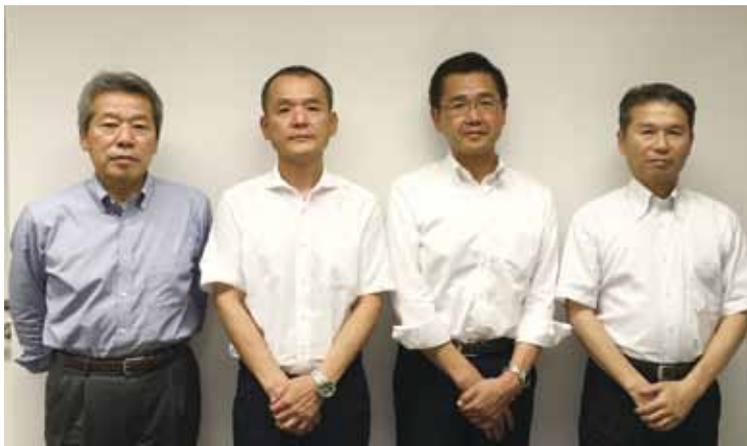
特記するような所は何もありませんが、近くには映画「関ヶ原」で脚光を浴びている関ヶ原の古戦場、水の都・大垣市に在る桜の美しい風情ある奥の細道結びの地があります。関西、関東への交通の便も良い所です。

第1回 委員会の紹介コーナー

JSDAの委員会は何をしているか、皆さんご存知ですか？
業界の明日のために頑張っているのです！
今号より各委員会の活動を委員の皆さんのコメントとともに
紹介します。

工事委員会

施工技術の開発と
施工品質の向上を図ります！



益岡 徹治委員長より (LIXIL 鈴木シャッター)

◆業界意義について… シャッター・ドア製品の施工技術の開発と施工品質の向上を図るとともに、現場等における事故防止と安全作業の促進に重点をおいています。活動を通して、工事の安全と適正な品質を確保し、業界の社会的な信用の維持向上を目標としています。昨今では、建設業法等のコンプライアンスに配慮した行動の提言も求められております。

◆今年の目標は？… 高速シートシャッター施工基準・電気施工基準の改訂、鋼製建具(引き戸・シャッター袖扉の統合)の施工基準の策定、労働災害発生状況の調査(なお、4日以上休業災害については対策を検討する)となっています。

◆委員長のコメント… 建築現場では、人の力によって部材を組立て製品に仕上げていくという人の感覚に任されている所が多々あります。そのため、施工技術の善し悪しで品質が大きく左右されてしまいます。各メーカー、各施工士によって完成した製品の品質にばらつきがない様、継続して施工技術と施工品質の向上と統一に取り組んで参ります。

各社委員の皆様より (五十音順)

岡本 光永 (文化シャッター)

◆施工技術者の技能力向上と高い施工品質を維持するために、協会として実施可能な施工基準を作成しています。また、毎年労働災害発生状況の調査をしていますが、他業界に比べ災害発生度数が高く、労働災害防止について認識を深めるためにも、安全対策マニュアル等の再作成に取り組んでいきます。

菅 圭司 (東洋シャッター)

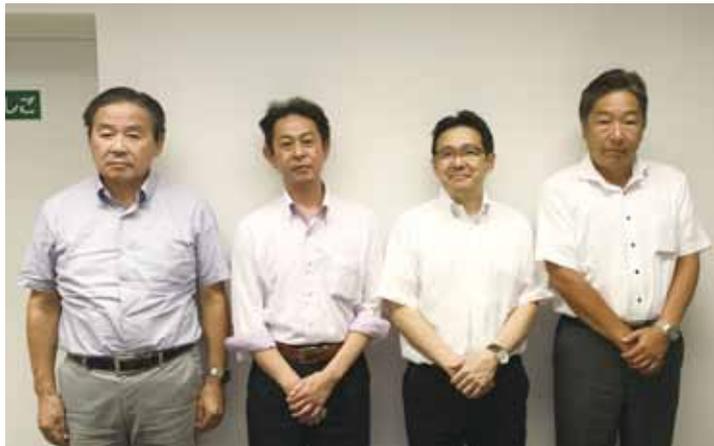
◆シャッター・ドア製品は、工場から出荷され工事現場に搬入された時点では、部品の集まりでしかありません。正しい作業手順によって、確実に取り付け、はじめて製品としての価値が生じ、本来の機能が発揮されます。よって、確実な施工方法及びケガや火災を出さない労働安全衛生の向上に取り組んで参ります。

斎藤 裕喜雄 (三和シャッター工業)

◆現場でシャッター・ドア製品を取り付けする施工技術者の高齢化や労働力不足が進むなか、如何に安全で効率よく正確に製品の取り付けが出来るようにしていくか、また施工を起因とする製品事故を無くし、ユーザーが安心して使用できる施工をして行くためにはどうするか、知恵を絞って課題解決に向け、取り組んでいきます。

メンテナンス委員会

メンテナンスの重要性を
拡めていきます！



河西 文華委員長より（文化シャッター）

◆活動意義について… 2016年6月より防火設備定期検査の報告制度が始まりました。メンテナンス委員会はこの1年に1度の法制検査項目を超える定期点検項目数を推奨しており、防火関連部位だけではないシャッター・ドア等のトータルメンテナンスを広く水平展開し、維持管理の重要性を全国に周知したいと考えております。

◆今年の目標は？… 重量シャッター、耐火クロスの点検基準作成が完了し、今年は引き続き鋼製建具、高速シートシャッター等々の点検基準を作成しています。点検基準の作成では、実際の点検作業を行っている現場からの声に耳を傾け、より現場に即したものとしたいと考えています。

◆委員長のコメント… 昨年までのメンテナンス委員会は防火設備検査制度の制度作りの方にパワーを傾注していたため、作業進行が滞っていた面もありましたが、今年はメンバーの入れ替えもあってよりフレッシュな顔ぶれになり、以前にも増して「攻めの姿勢」でガンガン行けそうです。各社の鬼才・逸材が一致団結して邁進中です。

各社委員の皆様より（五十音順）

北川 孝夫（文化シャッターサービス）

◆メンテナンス専門会社の立場からシャッターの点検、修理の問題、改善事項を本委員会の中で提案してきました。そのためかここ数年で作成された重量シャッター、耐火クロススクリーン、防火戸の点検基準は現場の点検作業の流れに沿ったものができたと自負しています。これからも現場に根ざした活動をしていきたいと思っております。

小島 壯太（LIXIL 鈴木シャッター）

◆委員会メンバーとなり約1年が経過しました。点検基準書などの標準類を作成する側になり、作業の重要性和と労力の大きさを痛感しております。建物ライフサイクルの中でシャッター・ドアのメンテナンス事業は重要な部分と考えます。今後も業界が発展し、ユーザー様により安心・安全を提供できるよう尽力させていただく所存です。

鮫島 敏郎（東洋シャッター）

◆現在、弊社本来の委員の代理で出席しております。今年度は点検法制化も二年目に入りメンテナンス委員会も益々その重要性が増してくると思っております。その一委員としてこれからも研鑽を積み広義にお役に立てますよう努めて参ります。

砂留 誠（金剛産業）

◆メンテナンス委員会に出席をする様になり3年が経ちました。私の前に委員会に出席をしていた者から、防火シャッター・ドア保守点検専門技術者証を取得する様に言われ苦勞をした記憶があります。それが今は点検基準を作る立場側になり、点検基準の重要性を感じています。当委員会はやりがいのある委員会だと思います。

丸茂 直樹（三和シャッター工業）

◆本年度よりメンテナンス委員会へ参加させて頂く事となりました。当委員会は防火設備定期検査制度を踏まえた点検基準の見直し等を含めて取り組むべく業務が多く、身の引き締まる思いで参加しております。今までの経験を活かしメンテナンス委員会から業界全体を盛り上げて行きたいと考えております。

技能検定制度化プロジェクトチーム

シャッター施工技能検定制度化に向け活動しています!



中内 勝也チームリーダーより (三和シャッター工業)

◆ **活動意義について**… 当業界は、シャッター及びドア製品に関する専門知識と技能を有する技術者を数多く抱えていて、特に防火設備の定期検査報告制度においては、制度の下支えと主導的な役割を多方面から期待されています。今後、シャッター施工の技能検定制度が始まると、維持管理と施工の両輪でより大きな役割と責任を担っていくことになります。

◆ **今年の目標は?**… シャッター施工の技能検定制度化に向けて、職務分析、受検資格の整理、学科及び実技試験の実施要領の整理等に関する文書や資料について厚労省から承認をいただき、次の段階となるトライアル試験の実施に進んでいきたいと考えています。

◆ **チームリーダーのコメント**… 厚生労働省への一部提出書類の原案を、委員全員にそれぞれ割り当て、委員会では、持ち寄った原案の内容を深く掘り下げ、十分に協議を重ねていくということを繰り返し行っています。このようにして各案件を進めていけるのも、ひとえに各委員の専門性の高さや豊富な経験によるものといつも感じています。

各社チームメンバーの皆様より (五十音順)

磯 康人 (LIXIL 鈴木シャッター)

◆ 今までシャッター施工士の地位・能力を測るものが無く今回技能検定制度化を確立することで施工士の技能も上がると思います。ワーキングチームでは職務分析フォーマット・試験問題の草案を作成し施工士が 本当の自分の技能を知りスキルアップにつながるよう活動しております。

上野 耕平 (三和シャッター工業)

◆ 当協会が技能検定制度を行うことのできる指定試験機関として厚生労働省から認定を得るために必要とする各種書類の作成をサポートする文章ワーキングチーム員として活動しています。防火設備の定期検査報告制度の経験を活かし、当業界施工技術者のステイタスとなる技能検定制度の確立に向け、力になれるよう尽力します。

岡本光永 (文化シャッター)

◆ シャッター・ドア業界の地位向上を図る観点から、施工技術者について、国家資格である技能検定制度の導入を目指し、必要な事項について検討を重ねています。技能の習得レベルを評価するために職務分析を基に、学科試験、実技試験(判断等試験、製作等作業試験)の実施要領について協議を重ねています。

風戸 雅男 (三和シャッター工業)

◆ 本資格が、シャッター・ドア製品に係る技能労働者等の技能向上推進となるばかりでなく、資格取得者が「シャッター・ドア工」として認知され、さらにシャッター・ドア製品に係る技能労働者等の地位向上となるような制度にしていきたいと思っています。

菊池 修 (LIXIL 鈴木シャッター)

◆ 各委員一丸となって各種原案の作成及び内容の協議を行っています。施工士の技能と地位の向上を図るべく、シャッター施工の技能検定制度化の実現に向け、推進していきます。

斎藤 裕喜雄 (三和シャッター工業)

◆ 当委員会は、職務分析フォーマットや試験問題の作成などを行うワーキングチームとしても活動しています。「シャッター施工技能士」が建築業界で認知されることで、施工技術者の確保・育成、高齢化対策にも繋がっていくものと期待されているため、技能検定制度の確立に向け、各委員で知恵を出し合い推進していきます。

佐久間 寛 (文化シャッター)

◆ シャッター技能検定制度化に向けワーキングチームの委員として、実技試験及び学科試験問題などを作成しています。技能検定制度化が実施されることにより、施工技術者の技術の向上や若年者の指導・育成が期待できるため、技能検定制度化の早期確立に向け、ワーキングチーム一丸となって推進したいと思います。

佐々木 正章 (小俣シャッター工業)

◆ 本制度がシャッター・ドア業界に定着し、安全に安心してご使用頂けると共に、技能者のレベルアップができることを願っています。現在トライアル試験を実施するための問題を作成中です。中内委員長のもと委員みんなで話し、より良いものが出来上がるよう協力してまいります。

鮫島 敏郎 (東洋シャッター)

◆ 本委員会の案件は業界の施工制度技能の充実化及び目に見える化に寄与し又業界、協会の今後の大きな柱となる制度の立ち上げになると思っています。その制度に携われることを誇りに、これからも頑張っていきます。

図子 正志 (三和シャッター工業)

◆ 委員が案として作成した試験業務規程、試験実施要領、職務分析フォーマット、試験問題案等の文書を指定様式にまとめる作業をしています。試験問題案をまとめていると、その高度な専門性の高さに驚き、施工に携わる方々へ改めて尊敬の念を抱きます。省庁との打合せに役立つように細心の注意をもって作業いたします。

益岡 徹治 (LIXIL 鈴木シャッター)

◆ シャッター施工に携わる方の技能を正しく評価すると共に、後継者のモチベーションを高める技能検定制度をイメージし、プロジェクトに参加しています。客観的な評価について各委員と議論を重ね、充実した内容になるよう微力を尽くしたいです。技能検定制度化により業界の社会的な信頼と技術力が、更に高まることを期待しています。

本山 保志 (東洋シャッター)

◆ 当委員会で、技能検定制度化に向けた資料作成及び運用を検討しており、配下のワーキンググループでは技能の基準となる職務分析や試験問題を作成しています。今後厚労省立ち合いの下トライアル試験を実施し、技能検定制度実施に向けメンバーの総力を集め進めていきたいと思っています。

山崎 浩樹 (文化シャッター)

◆ 今回の「シャッター技能検定制度化」が制度化する事により、施工技術者の確保と育成に繋がっていくものと期待しております。ワーキンググループの方々を中心に、検定制度スタートまでを更に加速させていきたいと思っています。

■ JSDA 委員会平成 29 年度上期活動報告

委員会名	4～9月の活動内容（計画の進捗などについて）	主な活動計画テーマ
業務委員会 (小森 聖二 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 防火設備検査報告制度を盛り込んだ「協会版メンテナンスガイド（案）」の作成が完了し、関連部門で内容確認中。 市場および用途（H28.10 調査分）の集計を完了し、JSDA 会報で公開した。 国交省主催の「第 1 回建設業社会保険推進協議会」に参加し、これまでの取組状況、H29 取組方針等の確認をおこなった（参加 80 社） 	<ul style="list-style-type: none"> シャッター・ドアの定期点検の普及及び点検法制化実施への対応 シャッター・OSD 及びシャッター関連製品の市場及び用途の調査 元下請関係の契約適正化 社会保険加入促進対策の推進 機能付加製品の普及（障害物感知（一般 / 自動閉鎖型）、防犯建物部品）
総務委員会 (犬飼 民夫 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 29 年度スケジュール確認と追加項目の検討 昇給、賞与に関する情報交換、勉強会 法改正に関する情報交換、勉強会 労働条件に関する情報交換、勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> 法律の施行・改定内容に関する勉強会の実施 労働条件等に関する勉強会の実施 会報コーナー「総務委員会だより」の作成
工事委員会 (益岡 哲治 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度労働災害発生状況調査を 8/31 付日の報告書で協会会員に知らせる 高速シートシャッター施工基準及び電気施工基準の管理 調整委員会指摘事項の審議完了 ※ 現在修正中 耐火クロスシートシャッター施工基準についての専門委員会質疑の審議と回答完了 鋼製建具（引き戸・シャッター扉統合）の施工基準の制定 ※9 月会議で各委員の担当範囲を決定し作成開始 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度発生労働災害うち休業災害（4 日以上）についての対策検討 高速シートシャッターの施工基準及び電気施工基準の改訂 鋼製建具（引き戸・シャッター扉）の施工基準の制定
講習委員会 (岡本 光永 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習会、東京会場：145 回（5/30）・146 回（6/1）受講、大阪会場：第 147（6/6）、148 回（6/7）の開催。受講者数【東京：252 名】、【大阪：120 名】 各種資格認定委員会の合否を判定する認定委員会の開催（6/28 日） 認定者数【東京：238 名】、【大阪：108 名】 	<ul style="list-style-type: none"> 防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習会の開催 各種資格認定委員会の合否を判定する認定委員会の開催
品質・安全委員会 (小池 恭則 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 事故情報（4 月 8 件、6 月 5 件、7 月 5 件、8、9 月 13 件）の内容を確認。 4 月、7 月に安全対策検討委員会を開催。各委員会からの報告および委員長からの事故状況に対する指摘、助言を受けた。 消費者庁による重大事故についての調査があり、各社で対応した。今後は、障害物検知の普及等、ユーザへの注意喚起方法を検討実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故情報の確認と分析 安全対策検討委員会の開催 他委員会からの依頼事項の検討 一般消費者、ユーザーに向けた安全普及活動の推進
メンテナンス委員会 (河西 文華 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 鋼製建具（開き戸・引き戸）、高速シートシャッターの点検基準の改定、策定を進めている。現状は各専門委員会に審議をお願いしている段階 軽量シャッター、OHD、グリルシャッター、高速高頻度グリルシャッターの点検基準の改定も準備を進めている 	<ul style="list-style-type: none"> 鋼製建具（開き戸・引き戸）、グリルシャッターを管理・調整委員会に対し、審議依頼する 軽量シャッター、OHD、高速シートシャッターの点検基準の改定及び策定を始める
連動機構・装置等 自主評定専門委員会 (大館 一樹 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 型式更新 8 件（5 月 3 件、7 月 5 件）の処理（専門 / 本委員会審査）を完了。 軽補正 1 件について相談を受け、9 月委員会に審査した。 本委員会申請時に必要となる「立合検査結果様式」の修正を完了。 感知器設置基準を防火設備検査に関わる国交省告示に合わせた内容に修正するため、火災報知機工業会と調整を実施した。能美防災からのアスル対応 	<ul style="list-style-type: none"> 連動機構・装置等の確認等申請審査 連動機構・装置等自主評定委員会への申請 煙・熱感知連動機構・装置等の設置及び維持に関する運用指針の改訂
企画広報委員会 (新子 雅之 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 会報（秋号）の制作 西日本支部会定例理事会を特集で紹介、委員会紹介ページおよび会員各社の紹介ページを新設した。 ホームページ改訂作業 事務局および制作会社を交えて現状の課題と改訂ポイントを検討した。制作会社から具体的な提案を受けて、実際の制作を開始する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 会報の発行 ホームページの充実 メディア広報の実施 会員メリットの訴求
浸水防止用設備 委員会 (山本 誠一 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 浸水防止用設備の技術基準、管理調整委員会承認で協会 HP 掲示完了 浸水防止用設備の点検基準作成中 用語集改定に委員 WG 参加し随時対応中 JIS 公募申請と経産省主管依頼完了、公募審査待ちです。本委員会活動 12-11 月 	<ul style="list-style-type: none"> 浸水防止用設備技術基準の策定 関連法規の検討 関係機関との意見交換
シャッター技術委員会 (福西 耕二 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> シャッター関連法規完了したが、管理調整委員会で協会関連法規に纏める。今後、ドア関連法規を記載して法改正に対応し易いファイリングを進める。 ガイドレール耐風強度計算書改定が管理調整委員会で承認されたが、公開は OHD 委員会の整合性確認待ち 用語集改定に委員 WG 参加し随時対応中 シャッター公共工事標準仕様書の改定国交省へ提案完了 	<ul style="list-style-type: none"> 重量シャッターの技術標準の改訂 軽量シャッター、グリルシャッターの技術標準の策定 シャッター用リモコンスイッチの誤操作等による事故防止に関するガイドライン作成 防犯性能の高い建物部品に関する業務 高頻度シャッターの設置及び維持管理に関するガイドライン作成
オーバーヘッドドア 技術委員会 (植竹 徹 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> スプリング切断による急降下事故を防止するため「安全に関するガイドライン」の見直しをおこない、ほぼ完了。 耐風圧強度計算基準を重量シャッターにあわせて内容に修正するため調整中。 用語集の見直しを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 安全装置基準の検討 耐風圧強度計算基準の見直し 負圧強度試験案の作成 防犯自主管理に関すること 用語集の見直し
ドア技術委員会 (諸留 充 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 鋼製建具、鋼製軽量建具の技術基準、管理調整委員会承認で協会 HP 掲示完了 鋼製建具、鋼製軽量建具の点検基準見直し作業中 用語集改定に委員 WG 参加し随時対応中 金物メーカー 3 社と法規上の問題・製作について意見交換、他社継続中 日本塗料工業会ノンクロ塗装の適正処理について意見交換済 鋼製建具公共工事標準仕様書の改定国交省へ提案完了 	<ul style="list-style-type: none"> 鋼製建具、鋼製軽量建具の技術標準作成 鋼製引き戸、鋼製軽量引き戸の技術標準作成 耐環境性に関する研究 防犯性能の高い建物部品（ドア B 種）に関すること
耐火クロススクリーン 専門委員会 (大場 広教 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 技術標準（技術基準、施工基準、点検基準等）の見直しが完了。管理調整委員会への審査依頼の資料等準備中。 耐火クロス製作 7 社からの「更新」処理を完了した。 海外基準「Active Fire Curtain」の内容確認および大臣認定耐火クロスとの相違点等確認中。 	<ul style="list-style-type: none"> 耐火クロススクリーン技術標準の改定検討 耐火クロススクリーンの自主管理に関すること 任意点検率向上策の検討（防火設備検査制度検査結果データの収集方法検討）
高速シートシャッター 専門委員会 (吉竹 直行 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 技術標準（技術基準、施工基準、点検基準等）案が完了。各基準詳細内容の整合性を確認中。 省エネ効果の公開方法、エネルギー計算規格化について再検討中。 高速シートシャッターを国の定める環境負荷の少ない物品（特定調達品目）へ提案することを検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> 高速シートシャッターの安全に関するガイドラインの見直し 高速シートシャッター技術標準の改定 省エネ効果の公開と啓蒙に関すること 任意点検率向上の検討 運営委員会より指示のあったエネルギー計算規格化再検討
窓シャッター 専門委員会 (清水 隆 委員長)	<ul style="list-style-type: none"> 技術基準の見直しを完了し、サッシ協会との合同委員会版基準を制定するため合同委員会にて内容を調整し、ほぼ完了となった。 施工基準を各社の取付説明書、軽量シャッター施工基準を参考に作成中。 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯性能の高い建物部品（窓シャッター）の自主管理に関すること 窓シャッター技術標準の策定及び施工基準の検討
技能検定制度化 PT (中内 勝也 リーダー)	<ul style="list-style-type: none"> 次の資料を厚労省の指導で作成。厚労省へ提出し、確認打合せ予定。 受検資格の整理 シャッター施工技能検定試験の試験科目及びその範囲並びにその細則（1、2、3 級） 職務分析フォーマット & 等級区分資格要件 他の技能検定との関連整理 	<ul style="list-style-type: none"> 〈技能検定制度立ち上げ準備〉 検定の対象とする技能者の整理。他の技能検定との関係の整理。 受検資格の整理 各階層に求められる知識 / 技能の範囲の整理 試験基準の作成 / 整理

カンボジア建設法策定支援と 密林のアンコール遺跡群

日本シヤッター・ドア協会 専務理事
亀村 幸泰



カンボジア建設法策定意見交換会

カンボジアにおいて、日本の建築基準法と建設業法を合わせたものに相当する建設法の策定が進められています。カンボジアから日本にその策定支援が求められ、国土交通省から私に建築基準法部分のアドバイザーとしての派遣の要請がありました。4回派遣される予定で、第1回が、8月8日と9日に開催され、カンボジア側は約20名の出席者、日本側は5名の出席者で、2日間、朝から夕まで大変熱心に質問が飛び、議論が尽きませんでした。

その後、私はシエムリアップに飛び、数百あるアンコール遺跡群の一端を探訪してきました。朝日に映えるアンコール・ワットは、水面にも映し出されて、幻想的な姿を現します。

アンコール遺跡群は、800年を超える眠りの中で、密林に埋もれてきました。木を切って取り除くと、逆に遺跡の崩壊が進むということで、修復が進まず、そのままになっている遺跡が多く、熱帯で管理を行わないとどうなるかという自然の驚異を身に染みて感じます。



密林の中に埋もれる遺跡



朝日に映えるアンコールワット

ロレイという遺跡の脇に、私設の課外学校があり、僧らしき人が声をかけるので、中を案内してもらいました。彼は、香港大学で英語と中国語を学んだということで、そこで教師をしているとのことでした。学校では200名ほどの生徒がいるということで、語学の他、パソコンやミシンを使った授業が行われていて、カンボジアの田舎でも、なかなか勉強熱心な人が多いんだと感心しました。

寄稿 旅行記

今すぐ行きたい！
旅行の思い出を紹介！

オーストリア (2016年6月)

音楽の都ウィーンは、中世の遺産・面影をそこかしこに残す、見どころ多い芸術の都です。旧市街を歩けば、女帝マリアテレジアや皇妃エリザベートが治めたハプスブルク帝国にタイムスリップ、環状道路リンクでは路面電車がゆっくりと走り、穏やかな時間が流れています。夜はもちろんコンサート、眠ってしまったらどうしようなんて心配は無用。観光客向けモーツァルトコンサートでさえ、全くクラシックに門外漢の私でも、その優雅な響きに拍手喝采です。

両岸に古城を眺めながら大河ドナウを東進すると、サウンドオブミュージックの舞台ザルツブルクに到着です。音楽祭で有名なこの地もまた音楽の町、モーツァルトやカラヤンの生家もあり、あちらこちらがコンサート会場、月下の古城ミニミニコンサートは、幻想的な空間を満たす澄み切った音色が夢のような一夜に似ています。汗にまみれた建築業界の喧騒とは無縁な、アートの世界に浸っていたいと思うのは、必死に働いてきた証？

音楽と芸術に酔いしれた10日間は、どこで飲んでも美味かった麦酒のせいかも…

(会員企業 白川氏)



モーツァルトコンサート



ザルツブルク

寄稿 美味しい お店紹介

おいそう！
今日のお昼はここにしよう！

浅草天ぷら 「葵丸進」

住所：東京都台東区浅草
1-17-3
電話：03-3841-0110



今回ご紹介するのは、戦後間もない、昭和21年12月に浅草雷門通りに開業した老舗の天ぷら屋さんです。浅草には有名な天ぷら屋さんが多数ありますが、観光客はもちろん地元の方にも長く愛されているお店です。ここの天ぷらの特徴はなんといっても新鮮な具材とごま油で揚げた香ばしい香りです。

今回注文したのは少し奮発して「特上天丼」です。海老に穴子など丼からあふれんばかりの具材に圧倒でした。お味はぜひご体験ください。

美味しいお店を紹介いただける方 募集中!!

応募資格：日本シャッター・ドア協会 会員企業
応募方法：おすすめのお店の情報とコメント（200字以内）と写真2枚をメールで送信。
応募先：h-tanaka@jsda-a.org
※掲載された方には掲載料をお支払いします。

新会員紹介

第二種会員として新たに3社の入会があり、11月2日時点での会員数は172社となりました。

統計データ

■過去1年間出荷推移<シャッター> (単位: m²)

	H28.10月	11月	12月	H29.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重量シャッター	107,320	96,128	90,448	88,647	98,058	103,503	81,712	75,882	85,052	83,599	92,701	107,671
前年比 (%)	-1.1	-2.3	-5.4	-3.5	1.0	19.0	16.9	14.3	4.3	-0.7	7.2	7.1
軽量シャッター	193,921	195,992	174,267	133,307	151,776	181,935	172,221	180,290	190,488	173,386	167,269	178,634
前年比 (%)	-13.7	-0.3	-5.6	-4.9	-4.6	0.7	-5.2	-0.7	-0.3	-2.6	-1.5	-6.6
電動化率	25.8%	27.6%	29.9%	28.1%	28.1%	28.7%	27.5%	26.9%	28.4%	29.0%	29.0%	29.7%
グリルシャッター	2,968	3,352	2,631	2,953	3,253	3,745	2,581	2,352	2,590	2,822	2,856	2,820
前年比 (%)	-28.2	-20.8	-33.7	-24.9	-16.1	-4.5	-14.5	-16.9	-20.7	-26.3	-20.6	-17.7
オーバーヘッドドア	21,588	26,391	27,249	20,783	24,737	23,393	17,507	18,228	21,462	21,135	22,472	26,016
前年比 (%)	-16.2	-0.5	16.9	4.1	10.4	-23.6	-2.0	-1.0	-3.8	-6.7	-7.8	1.0
合計	325,797	321,863	294,595	245,690	277,824	312,576	274,021	276,752	299,592	280,942	285,298	315,141
前年比 (%)	-10.3	-1.2	-4.2	-4.0	-1.6	3.4	0.6	2.8	0.5	-2.7	0.4	-1.8

< ドア > (単位: 枚)

	H28.10月	11月	12月	H29.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
鋼製重量ドア	39,303	40,734	42,745	36,625	41,684	55,614	32,662	33,430	37,163	36,011	35,468	39,398
前年比 (%)	5.6	-16.5	5.9	-8.2	7.8	17.6	14.9	17.4	20.7	6.6	1.5	-0.3
鋼製軽量ドア	30,292	32,202	34,071	34,372	35,238	32,746	21,797	24,252	23,955	25,777	30,250	36,036
前年比 (%)	-12.1	-3.3	-2.6	-4.7	-8.6	-1.2	-9.9	-2.4	-24.6	0.6	10.5	18.0

■年度別出荷推移<シャッター> (単位: m²)

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
重量シャッター	1,494,399	1,534,537	1,436,147	1,365,508	839,568	839,415	875,978	993,232	1,145,215	1,090,735	1,186,252	1,073,117
前年比 (%)	0.9	2.7	-6.4	-4.9	-38.5	-0.0	4.4	13.4	15.3	-4.8	8.8	-9.5
軽量シャッター	2,935,834	2,871,880	2,488,705	2,175,375	1,972,917	1,915,847	2,039,568	2,271,832	2,320,018	2,120,235	2,176,807	2,124,636
前年比 (%)	-15.5	-2.2	-13.3	-12.6	-9.3	-2.9	6.5	11.4	2.1	-8.6	2.7	-2.4
電動化率	25.1%	26.2%	26.3%	25.4%	24.5%	26.2%	24.5%	24.0%	23.5%	26.5%	27.0%	27.6%
グリルシャッター	100,244	90,630	79,124	61,751	54,719	52,483	55,410	53,207	56,361	48,210	42,245	38,867
前年比 (%)	-0.5	-9.6	-12.7	-22.0	-11.4	-4.1	5.6	-4.0	5.9	-14.5	-12.4	-8.0
オーバーヘッドドア	297,659	289,307	240,523	217,932	174,936	178,341	204,003	226,406	269,558	242,275	272,597	275,529
前年比 (%)	-7.9	-2.8	-16.9	-9.4	-19.7	1.9	14.4	11.0	-12.8	-10.1	12.5	1.1
合計	4,828,136	4,786,354	4,244,499	3,820,566	3,042,140	2,986,086	3,174,959	3,544,677	3,791,152	3,501,455	3,677,901	3,512,149
前年比 (%)	-10.2	-0.9	-11.3	-10.0	-20.4	-1.8	6.3	11.6	7.0	-7.6	5.0	-4.5

< ドア > (単位: 枚)

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
鋼製重量ドア	623,432	639,514	635,875	493,689	436,415	448,242	449,988	470,919	450,218	488,835	466,030	452,650
前年比 (%)	11.8	2.6	-0.6	-22.4	-11.6	2.7	0.4	4.7	-4.4	8.6	-4.7	-2.9
鋼製軽量ドア	956,026	971,002	1,003,218	888,996	680,918	618,079	574,528	415,782	415,591	432,918	388,787	363,251
前年比 (%)	6.6	1.6	3.3	-11.4	-23.4	-9.2	-7.0	14.5	-0.0	4.2	-10.2	-6.6

注) ・「鋼製重量ドア」は鋼製建具を、「鋼製軽量ドア」は鋼製軽量建具を指します。
・鋼製重量ドアは、ガスチャンバー、点検口を含みます。

新日鐵住金の高耐食性めっき鋼板

SuperDyma[®]

スーパーダイマ

JIS申請中!

環境に優しいクロメートフリー処理!!

「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」へ



新日鐵住金

薄板営業部

スーパーダイマの詳しいご案内は

スーパーダイマホームページ URL/

<http://www.nssmc.com/product/superdyma/>

お問い合わせ

E-mail

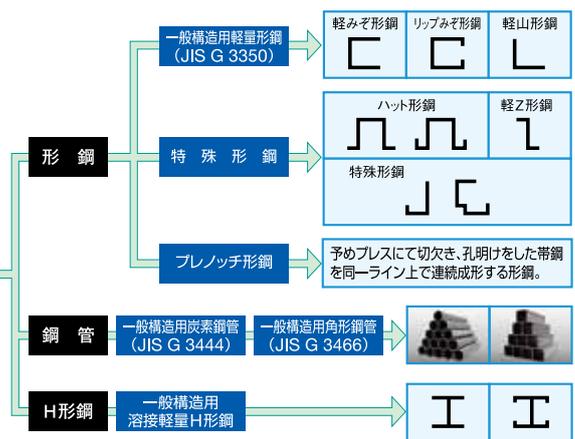
superdym@jp.nssmc.com

ZAM[®] はニーズに合わせて、
さまざまな形状がご提供できます。

新日鐵住金グループ



高耐食溶融めっき鋼板



3大特長

- ① コストダウン…高耐食性による長寿命化、後めっき代替が可能です。
- ② 寿命が長い…耐食性が溶融亜鉛めっきに比べ、10~20倍優れています。
- ③ 環境にやさしい…長寿命で、少ないめっき付着量の省資源型商品です。

※平成24年11月に溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板が、日本工業規格JIS G 3323として規格登録されました。

ZAM[®]

※「ZAM」は、日新製鋼株式会社の登録商標です。
「ZAM」は、日新製鋼株式会社が開発した溶融亜鉛Zn-アルミニウムAl-マグネシウムMg合金めっき鋼板の商品名です。

日新製鋼株式会社

●本社 〒100-8366 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル TEL. 03-3216-5166
●大阪支社 ●名古屋支社 ●中四国支社 ●北海道支店 ●東北支店 ●新潟支店 ●北陸支店 ●四国支店 ●九州支店

ガウディとサグラダ・ファミリア（スペイン）

建築家アントニ・ガウディ。活動の拠点としていたスペイン・バルセロナには数多くの作品がのこされており、世界遺産に登録された“アントニ・ガウディの作品群”はガウディ没後 91 年の現在でも人々を魅了し続けている。最も知られているガウディ作品といえばサグラダ・ファミリア（聖家族贖罪教会）ではないだろうか。

ガウディはサグラダ・ファミリアが着工された 1 年後の 1883 年から 1926 年まで 2 代目主任建築家として建築に携わった。特に、晩年はサグラダ・ファミリア以外の仕事は全て断り、サグラダ・ファミリア聖堂内の事務所に移り住むなどしてサグラダ・ファミリアの建設だけに専念した。ガウディの死は 74 歳のとき電車で跳ねられ、突然迎えることになる。葬儀は壮大に行われ、生涯を捧げたサグラダ・ファミリアの地下礼拝堂に埋葬された。ガウディは最期までサグラダ・ファミリアの完成形を見ることができなかったが、「神は急いでいない」と語っていたそうだ。

サグラダ・ファミリアは現在も建築中で完成はガウディ没後 100 年目の 2026 年とされている。



複雑な彫刻が施された外観は圧倒的な美しさ



世界遺産に登録されている「ご生誕のファサード」



内部は自然をモチーフとしており、光に照らされたステンドグラスと立ち並ぶ大理石柱は大迫力

JSDA 会報 2017 年・秋号

発行日:2017年11月 通巻第51号

発行者:一般社団法人 日本シャッター・ドア協会

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-5-8 共和 15 番館ビル 2F

tel.03-3288-1281 (代) /fax.03-3288-1282

URL:<http://www.jsd-a.or.jp>